

個別入試への「情報」の出題について

電気通信大学 大学院情報理工学研究科 教授 中山 泰一

1. 高等学校情報科と情報入試のながれ

2026年1月18日に、「情報」が出題教科となって2年目となる大学入学共通テストが実施された。第1問の小問集合が、簡単に答えられそうな問題に見えながら正答率が低かったこと^[1]や、第2問の「熊とカービィ」の問題で論理演算が問われたことが話題になった^{[2][3]}。受験生だけでなく大学生や社会人になった人たちも話題にしており、YouTubeで解説動画を公開する人もいた。つまり、2026年には、多くの人たちに「情報」が出題教科となっていることは知られており、「情報」でどのような内容が問われるかに関心がもたれていた。

大学入学共通テストに加え、個別入試においても、「情報」は出題教科となっている。2022年度から高等学校で実施されている学習指導要領では情報の科学的な理解に重点を置いた「情報Ⅰ」を必修科目として設定している。「情報Ⅰ」を学んだ高校生が受験する2025年度には、国公立大学では電気通信大学、高知大学、広島市立大学の3校が、私立大学では49校が、個別入試に「情報」を出題した^{[4][5]}。2025年度を「情報入試元年」と評する文献もある^[6]。

しかしながら、情報入試の歴史の始まりは最近ではない。歴史の始まりは、2003年度に高等学校に情報科が設置されるより前の、1990年代である^[7]。次ページ表1に高等学校情報科と情報入試の流れを示す。

1994年度から、家庭科に「家庭情報処理」、農業科に「農業情報処理」、工業科に「情報技術基礎」、商業科に「情報処理」、水産科に「水産情報処理」、看護科に「看護情報処理」が設定され、職業教育

を主とする高等学校において、情報に関する科目が必修となった。これに対応して、1996年度に実施された大学入学資格検定（大検）の選択科目として「情報関係基礎」が出題され^[8]、1997年度の大学入試センター試験の数学②の選択科目として「情報関係基礎」が出題されるようになった^[9]。

個別入試では、弘前大学理学部情報科学科が「情報技術基礎」を出題したことが1997年度の学生募集要項に記載されている^[4]。1998年度には私立大学・私立短期大学21校が個別入試で「情報」を出題したこともわかっており^[7]、これらの21校の一部も1997年度に「情報」を出題したと推測される。筆者が調査した限りでは、1997年度が個別入試に「情報」が出題された最初の年である。

大学入試センター試験・大学入学共通テストの「情報関係基礎」（1997年度～2025年度）と、大学入学資格検定の「情報関係基礎」（1996年度～2004年度）の問題と解答は、情報処理学会「情報関係基礎アーカイブ」に掲載されている^[10]。一方、1990年代の個別入試の「情報」の出題を紹介する文献は見つからず、問題を知ることはできない。

2003年度に高等学校に情報科が設置されたことから、国立大学では東京農工大学、愛知教育大学の2校が、私立大学では13校が、2006年度に個別入試で「情報」を出題している^{[11][12]}。また、国立大学では2008年度に奈良女子大学が、2011年度に高知大学が個別入試に「情報」を出題している^[4]。2012年頃の、愛知教育大学、大阪国際大学、神奈川大学、尚美学園大学、聖心女子大学、専修大学、千葉経済大学、筑波学院大学、帝京大学、東京情報大学、東京農工大学、明治大学（試作問題）、和光大学の「情報」の問題は、情報入試フ

フォーラム2012の資料集^[13]に掲載されている。

しかしながら、その後「情報」の出題を続けた大学は多くない（国立大学では高知大学だけが「情報」の出題を続けている）。先進的に「情報」を出題する取組みを始めたものの、当時の情報科は「情報A」、「情報B」、「情報C」の選択必修修のために出題が難しかったこと^[14]、受験者が増えず「情報」が好きな学生を集めるという目的を達成できなかったことが理由と考えられる。

流れが大きく変わったのは2016年と筆者は考えている。日本学術会議が2016年3月に情報学の参照基準を策定した^[15]。さらに、日本学術会議は、2020年9月に情報教育課程の設計指針の初版を、2026年5月に第2版を公表し、小学校から高等学校、大学までの間で、情報学のどの内容をどの段階で学ぶべきかを整理した^[16]。情報学が高等学校における情報科の親学問として位置付けられ、その内容が明確にされたことは、情報科の発展に大きく役立っている。なお、文部科学省は情報科の英訳を、当初はInformationとしていたが、2023年にInformaticsに改めている。

2016年3月には、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部に設置された情報ワーキンググループで、2022年からの高等学校情報科は「情報Ⅰ」を必修科目とした上で「情報Ⅱ」を選択科目とするという骨子が示された。また、同じく2016年3月に高大接続システム改革に関する検討会議において、大学入学共通テストの試験内容に、学習指導要領が切り替わった段階から、情報科を含めることを提言された^[17]。

なお、2016年度に慶應義塾大学（総合政策学部、環境情報学部）が個別入試の「情報」の出題を始めており^[18]、現在も「情報」の出題を続けている。

2016年の動きが基となって、2021年7月に2025年度からの大学入学共通テストで「情報」が出題されることが決まり、2022年11月に大学入試センターが「情報」の試作問題を公表した^[19]。

さらに、2026年度から、高等学校卒業程度認定試験（高認）の必修科目として「情報」が出題されている^[8]。

表1：高等学校情報科と情報入試のながれ

1994年	高等学校の専門教育に関する家庭、農業、工業、商業、水産及び看護の6教科に情報に関する科目が設置される。
1996年	大学入学資格検定（大検）の選択科目として「情報関係基礎」が出題される。
1997年	大学入試センター試験の数学②の選択科目として「情報関係基礎」が出題される。弘前大学の個別入試で「情報技術基礎」が出題される。
2003年	高等学校に情報科が設置される。「情報A」、「情報B」、「情報C」の選択必修修。
2006年	2003年に情報科が設置されたことに対応して東京農工大学、愛知教育大学などの個別入試で「情報」が出題される。
2013年	高等学校学習指導要領が改訂される。情報科は「情報の科学」、「社会と情報」の選択必修修。
2016年	慶應義塾大学（総合政策学部、環境情報学部）の個別入試で「情報」が出題される。
2016年	日本学術会議情報学委員会情報科学技術教育分科会が「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準：情報学分野」を策定する。
2016年	高大接続システム改革に関する検討会議が、大学入試センター試験の後継のテストに情報科を含めることを提言する。
2020年	日本学術会議情報学委員会情報学教育分科会が「情報教育課程の設計指針—初等教育から高等教育まで」（初版）を策定する。
2021年	大学入学共通テストが始まる。2025年度から大学入学共通テストで「情報」が出題科目となることが決まる。
2022年	高等学校学習指導要領が改訂される。情報科は「情報Ⅰ」が必修、「情報Ⅱ」が選択。
2025年	大学入学共通テストで「情報Ⅰ」が出題される。国公立大学3校、私立大学49校の個別入試において「情報Ⅰ」（一部の大学では「情報Ⅰ」、「情報Ⅱ」）が出題される。
2026年	日本学術会議情報学委員会情報学教育分科会が「情報教育課程の設計指針—初等教育から高等教育まで」（第2版）を策定する。高等学校卒業程度認定試験（高認）の必修科目として「情報」が出題される。

2. 2025年度からの個別入試の「情報」の出題

2025年度に国公立大学3校が、私立大学では49校が、個別入試に「情報」を出題した^[5]。2026年度には、高知工科大学、立命館大学なども「情報」の出題を始めた^[20]。崇城大学の松島拓路助教が作成したWebサイト^[21]には、2026年度に個別入試に「情報」を出題した大学として、国公立大学5校、私立大学60校の一覧表が掲載されている。

さらに、2027年度には京都橋大学、松山大学、福岡工業大学などで「情報」の出題が予定されており、2028年度には静岡大学が科目名を「総合」から「情報」に変更して出題が予定されている。

試作問題を公表したり体験受験会を実施したりする大学もあり、「情報」の出題に向けて着実に準備が進められてきた^[22]。過去に、東京農工大学^[12]、慶應義塾大学^[18]でも、試作問題を公表したり体験受験会を実施したりして情報発信がされていた。それらを見習って、2025年度以降に「情報」を出題した大学はさらに積極的な情報発信をしていた。

一般に、入試に関わる内容は秘匿性の高いものとして扱われるが、新しい教科として「情報」の出題をするにあたっては情報発信が重要であり、個別入試への「情報」の出題を成功させるために必要とされるものと筆者は考える。

以下は個別入試で「情報」を出題した大学の関係者が、情報処理学会全国大会、情報科学技術フォーラム、情報学科・専攻協議会のイベントなどで行った講演に基づくものである^{[6][20][23][24][25]}。

○電気通信大学

日本のデジタル化を担う高度情報人材の育成を目的に、「情報」を出題することを戦略的に導入した。物理を受験せずに入学する者がいることへの懸念があったものの、学長の強いリーダーシップで実現した。「物理・化学・情報」から2科目を選択する方式とした結果、約4割が「情報」を選択し、問題を見て受験を決めた受験生も多かった。学校外で自主学習する受験生も多く、「情報」の入試が学習意欲の向上と情報人材育成に寄与することを目指している。

○広島市立大学

情報科学部を擁する大学として、後期日程で「情報」を必須科目とし、共通テストと個別試験を合わせて高配点とする大胆な制度改革を実施した。その狙いは、「情報を学びたい」という意欲を持つ学生を積極的に選抜することである。高校との連携や入試対策講座も展開し、入試を通じて高校の情報教育を活性化し、情報人材育成につなげる重要な仕組みとして位置付けている。

○高知工科大学

情報学群・データ&イノベーション学群で「情

報」を選択科目として導入し、知識だけでなく論理的思考力や問題解決能力を重視した独自問題を出題した。受験者の54～71%が「情報」を選択し、高い関心が示された。一方、論理的思考を要する問題や基礎知識の定着には課題も見られた。この結果を踏まえ、思考力を高める情報教育の重視性がさらに高まると考えられる。

○北海道科学大学

共通テストに加え独自の「情報」試験を導入し、試験当日に科目を選択できる柔軟な制度と、学科ごとの指定科目を含む高得点科目により最大3学科の合否を判定する仕組みを採用した。2025年度には約1,000人が「情報」を受験し、工学系だけでなく保健医療系でも高い選択率を示した。公平性確保のため主要教科書に共通する内容を出題範囲とした。多様な分野で情報リテラシーの重要性が高まっていることを示した。

○日本大学

文理学部が「情報」を出題した。18学科を擁する文理融合学部として、高大接続と全学生必修の数理・データサイエンス・AI教育との連携を目的に「情報」入試を導入した。人文社会系と理学系で出題内容を調整した結果、人文社会系では学力差を適切に評価できる得点分布となり、受験者層に応じた問題設計の重要性が確認された。多様な学問分野に対応した情報入試のモデルを示した。

○南山大学

「情報Ⅰ」を理科の選択科目として導入し、大問ごとに物理・化学・情報から自由に選択できる柔軟な試験方式を採用した。基礎知識に加え、共通テスト用プログラム表記とは異なる独自プログラム言語による問題を出題し、プログラミング技能ではなく論理的思考力を評価したことが特徴である。受験生が挑戦しやすい制度設計を通じ、高大接続と情報分野への学習意欲向上を目指した。

○京都産業大学

一般選抜で「情報プラス型」入試を導入し、既存科目に加えて「情報」を評価する仕組みを採用した。新科目への不安を軽減しつつ、情報に自信のある受験生を積極的に評価できる制度とした結

果、志願者数や入学率は想定を上回った。情報理工学部では情報を高い配点にすることで情報重視の姿勢を明確に示している。

○立命館大学

大学改革の一環として、全学的な方針のもと独自の「情報」の入試を導入した。情報理工学部だけでなく文系学部も含めて活用し、「情報」を全学的に重視する姿勢を示したことが特徴である。記述式試験では知識よりも論理的思考力や問題解決能力を評価し、大規模入試に適應できる採点システムも整備した。教育改革と入試改革を一体で進めることが重要であると考えている。

参考文献

- [1] 小原 格, 身近な「アナログ」の再発見を！～令和8年度大学入学共通テスト「情報Ⅰ」第1問の分析, 情報処理, Vol. 67, No. 10, pp. e50-e59 (2026)
- [2] 中山 泰一, 熊とカービィ: 2026年度大学入学共通テスト, 情報処理, Vol. 67, No. 4, p. 161 (2026)
- [3] 中野 由章, バボちゃん・くまちゃん(令和8年度大学入学共通テスト『情報Ⅰ』第2問B), 情報処理, Vol. 67, No. 5, pp. e34-e42 (2026)
- [4] 中山 泰一, 2025年「共通テスト「情報」元年にあたって, 情報処理, Vol. 66, No. 1, p. 9 (2025)
- [5] 河合塾キミのミライ発見, 2025年春 教科「情報」による個別学力検査・一般入試を実施する大学 <https://www.wakuwaku-catch.net/nyushi240801/>
- [6] KEIHER online, 情報入試実施大学レポート—京都産業大学・南山大学・日本大学—「情報入試元年」を振り返る——2025年度一般選抜入試で「情報」を出題して https://keiher.com/opinion_nyushireport2025_informatics/
- [7] 中山泰一, 1990年代の大学情報入試の動きについて, 情報処理学会情報教育シンポジウムSSS2024, pp. 199-203 (2024)
- [8] 坂東 宏和, 中山 泰一, 大学入学資格検定「情報関係基礎」および高等学校卒業程度認定試験「情報」の経緯とプログラミングの試験問題の分析, 情報処理学会第67回プログラミング・シンポジウム予稿集, pp. 87-102 (2026)
- [9] 竹内郁雄, 出題ノート22 (情報関係基礎), 大学入試フォーラム, No. 24, pp. 56-61 (2001)
- [10] 情報処理学会プレスリリース, 大学入試センター試験/大学入学共通テスト「情報関係基礎」のアーカイブを公開, <https://www.dreamnews.jp/press/0000238395/>
- [11] 教育家庭新聞, 平成18年度大学入試 15大学が「情報」を入試問題に ～入試問題概要～ <https://www.kknews.co.jp/maruti/2006/news/johosyutudai.htm>
- [12] 中森真理雄, 竹田尚彦, 大学での情報入試, 情報処理, Vol. 48, No. 11, pp. 1213-1217 (2007)
- [13] 情報入試研究会, 「情報」入試問題研究フォーラム資料集 (2012)
- [14] 萩谷昌己, 大学入試における「情報」科目の導入へ向けて, じつきょう情報教育資料, No. 17, pp. 1-6 (2007)
- [15] 萩谷昌己, 情報教育の格差と, 情報学分野の参照基準: 情報教育の基盤となる学問としての情報学, 情報管理, Vol. 59, No. 7, pp. 472-478 (2016)
- [16] 中山 泰一, 久野 靖, 「情報教育課程の設計指針 (第2版)」解説, 情報処理, Vol. 67, No. 11 (2026)
- [17] 寛捷彦, 中山泰一, 情報入試のすゝめ, 情報処理, Vol. 59, No. 7, pp. 632-635 (2018)
- [18] 慶應義塾大学, 一般入試「情報」参考試験(2015年7月30日実施)の問題等の公開および実施結果について https://www.sfc.keio.ac.jp/joho_sanko_2015_kekka.html
- [19] 水野 修治, 令和7年度大学入学共通テスト『情報Ⅰ』の実施に向けて～問題作成方針に関する検討の方向性と試作問題～, 情報処理, Vol. 64, No. 2, pp. 74-77 (2023)
- [20] KEIHER online, 情報入試実施大学レポート2026—松山大学・高知工科大学・広島市立大学・立命館大学—新課程「情報入試」—2年目の共通テストと広がる個別入試 https://keiher.com/opinion_nyushireport2026_informatics/
- [21] 情報科教員Hub, 2026年春 教科「情報」による個別学力検査・一般入試を実施した大学 https://joho9db.net/2026_admission_informatics.html
- [22] 赤澤 紀子, 小宮 常康, 井上 智生, 安田 豊, 谷 聖一, 植原 啓介, 角田 博保, 中山 泰一, 個別入試への「情報」の出題, 令和6年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会 自主企画セッション (2024)
- [23] 安田 豊, 小宮 常康, 新課程「情報入試」最初の選抜を終えて, 情報処理, Vol. 66, No. 10, pp. 456-460 (2025)
- [24] 中野 由章, FIT2025イベント企画: 大学情報入試を振り返る～大学入学共通テストや個別テスト「情報」の振り返りと, 高校現場の対応～, 情報処理, Vol. 67, No. 1, pp. 16-21 (2026).
- [25] 安田 豊, 小宮 常康, 井上 智生, 鼎談: 「情報」を大学入試に導入して見えたこと ～電気通信大学・広島市立大学・京都産業大学による鼎談から見えた現場のリアル～, 情報処理, Vol. 67, No. 2, pp. 66-70 (2026)